



潮流

題字：末兼南子さん 写真：馬島のひまわり

大津島データ 168世帯
人口 229人 男 93人 女 136人
高齢化率 80.3%
(令和元年7月31日現在)

第51回 山口県離島青年会議 in 大津島

離島青年会議とは？ 県内の離島に住む若者が、一年に一度集まり、近況報告や、地域づくりの情報共有など、活発な議論を行う。各年で、太平洋側の離島と瀬戸内海側の離島が、交互にホストを引き受けながら、回数を重ねてきた。大津島が、青年会議を引き受けたのは、およそ30年ぶり。今回は、コミュニティ/若潮の会/磊ノ島が協力し、企画・運営を行いました。



7月6日(土)〜7月7日(日)。第51回山口県離島青年会議が、開催されました。当日は、県内の離島から、総勢100名の島民が集まり、熱い議論を交わしました。会議は、2部構成で行い、第一部では、拓殖大学(東京)関ゼミナール学生が、「学生と協働する地域づくり」について講演を行いました。学生達は、ガチガチに緊張していましたが、それでも島に対する熱い想いは、感じることが伝わってくる講演でした。第二部では、「地域づくり」「エザイン」「漁師」3つの班に分かれ、熱い議論を交わしました。交流会では、平家踊り保存会による「平家踊り」が披露されました。(詳細は、裏面にて記事を掲載)。また、渡邊宗彦さん撮影の「大津島を空から見よう」では、ドローンを使い、島内の各集落を空から撮影した美しい映像が流れました。(こちらの映像は、島内行事にて紹介します)。翌日は、ちえさんば(松本千恵子さん)や、回天記念館の見学、島食堂ひなたの昼食・視察を行いました。この2日間は、徳山の気温が1度上がったんじゃないか?と思わせてくれるくらい、集まった島民達の「島への愛情と熱意と真剣さ」が、ヒシヒシ伝わってきました。「彼らも頑張っているから、うちの島も負けていられない。」そのライバル心が、来年の青年会議までの私のモチベーションになっています。最後にりましたが、受け入れに際し、多くの皆さまにご協力をいただき、実行委員を代表し、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。文||大友 翔太



文=大友 翔太

離島青年会議 交流会にて、数十年ぶりに、本土で「平家踊り」を披露しました。総勢12名がステージに上がり、踊りを披露しました。今回の公演では、移住者3人 衆松田翔剛君、内山剛君、磯中皆美さんは、初めて平家踊りに挑戦しました。当日まで猛練習を重ね、最初ガッチガチで、ロボットのようだった内山君も、個別自主練習の成果もあり、どうにか間に合いました。踊りを見た皆さんからは、高評価をいただきました。市内に住んでいても、初めて見たという声も多く、今回の公演で平家踊りの魅力を、多くの方々に伝えることができました。台風の影響により今年の供養踊りは、中止となりました。来年の盆に、移住者3人衆が、マカギ(真影)を切れるのか!?今から楽しみです。

行事報告

2団体合同総会開催

7月9日(火)、大津島ふれあいセンターにて、社会福祉協議会及びコミュニティ推進協議会による大津島地区合同総会を開催しました。昨年度の事業報告及び収支報告、新年度の事業計画及び予算案が承認されました。

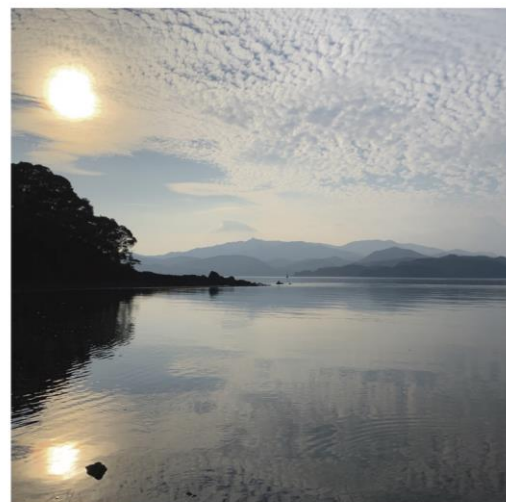
また、都市政策課・道路課・大津島巡航・回天顕彰会・ふるさと振興財団、各担当からのお知らせについて意見交換を行いました。

昨年度に発生した豪雨災害による市道通行止めの影響もあり、開催時期等が遅れ、皆様にご迷惑をお掛けしました。その中で、無事に終わることができたのは、ご協力いただいた皆さまのおかげです。ありがとうございました。文||原田和保

「拓殖大学学生ボランティア 30名来島」



8/5~8/8の日程で、拓殖大学学生が30名来島。道路清掃(柳ヶ浦、天ヶ浦、本浦)や、すだいの幼木の管理などをおこないました。次回は、9月末に来島予定です。文=大友 翔太



瀬戸内海の自然
暑さが日に日に増してきた頃、陽が傾きはじめ、久しぶりに近江へ散歩へ行きました。海辺を歩いていると、瀬戸内海らしい風景がそこにはありました。
陽が反射するほど穏やかな海、向こう岸には連綿と山々が連なり、そこかしこで蝉の声が鳴り響きます。
ふくつと深呼吸。自然との関わりを自覚する、夏の風景です。
松田翔剛

羊の羽は
丘にあり

vol.13

若潮の会通信 No.30

文野間久生

この度の離島青年会議、若潮の会は、特別顧問を始め19名で参加しました。分科会は若潮の会の設立目的と経緯等々出身者が支援する島づくりをテーマに話を進めて行く予定でしたが、途中から各島の現状発表の場と化し、準備していた写真や地図もお披露目でき

ヌートリア（特定外来生物）

文原田和保

7月1日、近江地区にある近江消防機庫近辺に捕獲器を仕掛けたところ、ヌートリアがワナにかかりました。以前から、数匹程度目撃されており、作物等の被害も出ておりました。

大津島へどのように入りこんだのかは不明ですが、実際に生息していることが判明しました。おとなしく優しくそんな顔をしておりませんが、大きな前歯があり、指でもかまれたら、大けがをしてもおかしくないとのこと。

他の地域でも繁殖している可能性がありますので注意しましょう。

ませんでした。少し後悔が残ります。夕方からの交流会では、我々のメインイベントとして『島を空から見てみよう』と題して渡邊宗彦さんがドローンで空撮された映像を観賞して頂きました。撮影に同行していたものの初めて空から見る景色が目まぐるしく変化していく様に、私の説明が付いて行かず事前の準備の必要性を感じました。またゆっくりに鑑賞したいものです。

2日目の島内視察では、回天記念館の見学後、「ひなた」の昼食を頂きました。今回参加の拓殖大学生3人のご協力を得て、若潮の会の旗で参加者を見送り、無事終了しました。

今回の交流会で島外の方々に説明できた事や、会の規約等の見直しの必要性も見つけられ、今後の活動に生かしたいと思っております。



【補足】 特徴 頭胸長50から70cm程度、尾長35から50cm程度、体重4から5キログラム程度。前歯はオレンジ色で長く鋭い。小さな手で物をつかみ、水かきのついた大きな足が特徴。

台風にご注意しましょう

台風が多発する時期です。日頃から早めの準備をお願いします。また、台風の接近に伴い大津島巡航が欠航となる場合もありますので注意しましょう。

(欠航の問合せ先 大津島巡航 0834-21-7749)

【編集後記】

9月になります猛暑つづきで体にこたえる暑さです。現在、35度以上が当たり前のように続き、人間の体温よりも高くなっております。しっかりと水分（塩分も含む）をとるように心掛けて下さい。台風も本格的に多い時期になります。大津島は、高潮の影響もありえることを考えさせられました。日頃からの備えと早めの避難をお願いします。

文責：原田 和保

お知らせ

【次回潮流発行予定日】
11月1日 第270号

移動図書館 やまびこ号ジュニア
9月18日(水)、10月9日(水)
刈尾待合所 11:20~12:50
※馬島待合所につきましては豪雨災害による通行止めのため、しばらく休止します。

【9月~11月の主な島の行事予定】
9月15日(日) 大津島地区敬老会
9月24日(火) 須金との秋季交流会

大津島地区社会福祉協議会からのお願い
善意銀行への寄付にご協力ください

知っちょるかね

うじゃける話

文松本千恵子

つい最近の話。息子が「わしは額にかいもんが出来て、かゆうてやれんよ」と言うから、「とれどれ」と見てみるもフツフツは無くなって、赤みが出て「うじゃけ」ちゃった。私が「これはもう、うじゃけちゃあね」と言ったら、息子「うじゃけるちゃあ何か。初めて聞く言葉じゃ」と言う。そこで「初めてのはずはない」と思いつつ「うじゃける」はオテキのようなもの、時間が経つと赤く腫れて後に破れてそこから膿が出てきた状態の事だと説明した。

最初からヒロウな話で失礼したが、この「うじゃける」で思い出したことを、書こうと思う。それは母に聞いた事。母が子供の頃、昔は「よひ」と呼ばれる悪性のデキモノが背中に出来、熱が出て痛くて物も食べられずただ寝たり転げたりしていた事があったという。この頃と違いそうそう医者など行かなかった時代。色々な行商の人達があつたそう、その人達があつたそう、その中にたまたま灸を下す人があつて、母を見て「この子はどうしたのか」と聞かれ、訳をいって祖母に味噌を持って来させ、それで「よひ」の周りをぐるりと土手を作り、その中に〇〇を入れ、その外側には藁で一回り大きくて高い柵を置かせ

て服に汚れが付かぬようにしたのだという。それで多分灸もすえられたのだろう、その晩からとても楽になって、数日内には、「よひ」が「うじゃけ」で膿が沸き出すように出て、すっかり治ったのだという。

さて、ここで味噌の土手の中に入れた物が何であったのか、残念な事に忘れてしまった。多分食油ではなかったかと思っただけだが母亡き今、もはや確かめる術は無い。またそういう治療をした人にはいくら払ったのか、貧しい島にあっては、そう大したお金も払えなかったと思われるが、母は常々「あのモグサ売りさあにわしは命を救われた」と言っていたものだった。

栄養状態が良くなった今、オテキそのものを見る事もないが、もの凄く悪い状態が「うじゃけ」たあとには、ピンクのきれいな新しい皮膚が再生された。よく偉い方が「膿を出し切って、正します」なんて言っているが、「うじゃけ」てピンクの皮膚を待たず、言った事で終わった事になっていゝるんじゃないの？って思う事ある気がせんじやろつか。

なあんて、うちの子が「うじゃける」を知らん事から母を思い出した話でした。

徳山湾見聞録

17 三角形の板がついた海岸に立つ謎の白い柱

文回天記念館 三崎英和

夏休みももうじき終わりですが、私の夏休みの思い出は何と言っても毎日通った小学校のプールです。当時は自治会単位で毎日、プールが利用できましたので、毎日通えば当然、身体は真っ黒でした。そんな中、漁業を営む叔父さんが、盆期間に一度だけ甥や姪を連れて黒髪島に泳ぎに連れて行ってってくれていました。その時点で既に身体は真っ黒でしたが、海から受ける紫外線の量って半端じゃないですよ。一日中泳いだ翌日には、背中に水で湿らせたタオルをのせ、それを扇風機であおぐといった格好で一日中過ごしていたことを思い出します。

実はその頃から、海岸に白色の三角形の板が付いた柱があることに気付いていました。それが何かは分かりませんでした。その正体が海底ケ

プールの設置場所を示す標識だと別の漁師さんから教えてもらったのは、随分後でした。この標識、島内でもいくつか見つけることができ、海底ケーブルの敷設場所は海図で確認できます。それによると大津島へは四郎谷から本浦、長江から近江までの2系統が敷かれています。刈尾・瀬戸浜から黒髪島、柳ヶ浦から野島と別の島へも敷設されています。という事は、大津島は他の島を支える重要な島であるということにもなるのです。



イラスト 三崎英和さん